



笠岡市社会福祉協議会

下市毛地区

社協だより

第8号

「二年最後のプログラム」

下市毛なのはな会 会長 井江 裕子

毎年、年末になると一年を締めくくるプログラムの中で、一番大きな行事が浮かんできます。それが会館大掃除と、そば打ち、忘年会です。

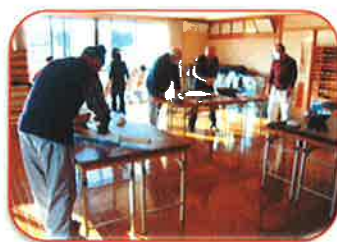
そば打ちは、平成24年から、会館大掃除のご苦労さんと云うことで始まりました。清掃日当日、男性軍がそば打ち道具を家から持ち寄り、腕によりをかけて、つなぎ無しの100%そば粉のそば打ちが始まります。

一方女性軍は、前日から自分の畑で育て収穫した野菜を持ち寄り、ワイワイ、ガヤガヤ、洗う人、カットする人、口を出す人、大騒ぎの中で楽しみながら、5種類からの料理が出来上がります。味見の段階で上々の出来栄えに、一同笑顔も全開。当日はそば打ちが終わる前に天ぷらを揚げたりしながら、手の空いた人から台所の掃除や和室の畳拭き、トイレも念入りに。玄関の靴棚。スリッパの裏拭き等を行います。

又、会館周りのガラス戸の水洗い、内側からの水拭き。外回りの雑草取りには、冷たい北風に少々抵抗しながらも、晴天に恵まれたことに感謝し、作業分担を自然の流れの中で終わります。

そろそろそば打ちも終わりに近づき室内の準備も完了。全員が席に着き忘年会が始まります。まずは一年を振り返り、皆さんと一緒に各行事に日々を重ねる事が出来、各自の健康を喜び、並んだ料理に舌つづみをうち、天ぷらそばの出来栄えをゆっくり味わいながらカラオケが始まり、それに聞き惚れたり、一緒にコーラスを楽しんだりの中で、時間が流れて行きます。

なにはともあれ、一年が各目の思いの中で充実した内容であったこと、健康に恵まれた生活が出来たこと、そして地域での絆を深く感じると共に、それらを糧に新しい年を迎える喜びを覚えます。



「自主防災訓練」

15区自主防災会長 飯塚 信一

15区下市毛自主防災会は、10月30日(日)下市毛会館において、38名の参加をいただき防災訓練を実施いたしました。

訓練は、10月30日午前10時10分頃、首都直下地震が発生し、都心南部において、M7.3最大震度7、茨城県内震度6弱の地震が発生し、市内各地区で建物倒壊等の被害が発生したという想定で行いました。

1. 安否確認

一人暮らし高齢者及び高齢者のみ世帯(70歳以上)、要介護3以上の方々の避難について、自主防災組織、民生委員、班長等の協力のもとに実施することを確認しました。

2. 防災倉庫に保管している防災機材の点検及び取扱い要領の説明

発電機の取扱い、担架の組立、搬送方法、折りたたみリヤカーの組立、ポータブルトイレの展張要領等を体験しました。

3. 炊出し訓練

しだれ桜ボランティアの方々に、野外での薪による炊飯を説明してもらい、おにぎりの試食会を行いました。

災害が発生した時迅速かつ的確な応急対策を実施するためには、日頃からの訓練が重要です。

今後とも、自分たちの地域を自分たちで守るために、継続的に訓練を実施していきたいと思えます。

